

福 生 市 学 校 施 設 耐 震 診 断 ・ 補 強 結 果

学校名	施設の名称	建築年度	構造	階数	診断年度	診断結果		補強等の 必要性	補強工事年度	補強後	
						IS値	CT×SD値			IS値	CT×SD値
福生第一小学校	校舎	昭和37～38年度	RC	3	平成8年度	0.25	0.38	有り	平成10～11年度	0.75	0.54
	新校舎	昭和56年度	RC	2	新耐震						
	体育館	昭和55年度	RC	2	平成8年度	2.16	q=3.23	なし			
福生第二小学校	校舎	昭和39～41年度	RC	4	平成9年度	0.23	0.31	有り	平成10年度	0.72	0.36
	新校舎	昭和51年度	RC	2	平成9年度	0.75	0.38	なし			
	体育館	昭和56年度	RC	2	新耐震						
福生第三小学校	校舎	昭和40～46年度	RC	3	平成9年度	0.36	0.39	有り	平成11～12年度	0.78	0.39
	体育館	昭和57年度	RC	2	新耐震						
福生第四小学校	東校舎	昭和41～42年度	RC	3	平成10年度	0.25	0.31	有り	平成12年度	0.75	0.33
	西校舎	昭和50～53年度	RC	2	平成11年度	0.56	0.69	有り	平成12年度	0.97	0.62
	体育館	昭和58年度	RC	2	新耐震						
福生第五小学校	西校舎	昭和43～45年度	RC	4	平成10年度	0.20	0.25	有り	平成11年度	0.77	0.79
	東校舎1	昭和52年度	RC	4	平成10年度	0.80	0.63	なし			
	東校舎2	昭和57～平成1年度	RC	2	新耐震						
	体育館	昭和59年度	RC	2	新耐震						
福生第六小学校	校舎	昭和44～50年度	RC	4	平成11年度	0.52	0.11	有り	平成12年度	0.83	0.39
	体育館	昭和60年度	RC	2	新耐震						
福生第七小学校	校舎	昭和48～51年度	RC	4	平成10年度	0.41	0.23	有り	平成11年度	0.75	0.42
	校舎西	昭和56年度	RC	3	新耐震						
	体育館	昭和62年度	RC	2	新耐震						
福生第一中学校	校舎	昭和39～40年度	RC	3	平成9年度	0.38	0.41	有り	平成10～11年度	0.74	0.80
	新校舎	昭和55年度	RC	2	平成8年度	1.16	0.65	なし			
	体育館	昭和48年度	RC	1	平成9年度	0.73	q=0.77	有り	平成14年度	0.89	q=1.03
福生第二中学校	校舎	昭和39～41年度	RC	4	平成10年度	0.36	0.37	有り	平成12年度	0.72	0.73
	校舎西	昭和52～55年度	RC	4	平成10年度	0.51	0.21	有り	平成12年度	0.77	0.32
	校舎東	昭和58年度	RC	3	新耐震						
	体育館	昭和54年度	RC	2	平成10年度	0.98	q=1.03	なし			
福生第三中学校	校舎	昭和48～56年度	RC	4	平成9年度	0.48	0.35	有り	平成10年度	0.76	0.45
	校舎西	昭和56～61年度	RC	4	新耐震						
	体育館	昭和49年度	RC	2	平成8年度	0.79	q=0.87	有り	平成9年度	0.98	q=1.10

注)表中の用語について

構造「RC」: 鉄筋コンクリート造建物のことです。

診断結果

「IS値」: 構造耐震指標のことで、その建物が地震にどのくらい耐えられるかを表す指標。  
 IS値0.6以上で耐震性能を満たすとされるが、文部科学省では0.7を耐震改修の目安としています。  
 IS値 $\geq$ 0.6の安全性とは、震度5強～6弱程度の大地震では被害を軽微～小破程度にとどめ、震度6強～7の強大地震に対しても建物が倒壊し、又は崩壊することなく人命を保護することを目標としています。

診断結果

「CT×SD値」: CT(累積強度指標)とSD(建物形状指標)の積で、IS値が高くてこの値が低い場合は安全としない目安で、0.3以上を安全とします。  
 1.25以上ではIS値が低くても安全とし、0.3未満ではIS値を満足しても安全としません。

「q値」: 保有水平耐力の指標で、IS値が0.6以上でかつq値が1.0以上であれば倒壊や崩壊の危険性が低いとされるものです。